

# 「戦争も核兵器もない世界に」

## 国連本部前 各国市民が集会

### 吉良氏ら参加

【ニューヨーク＝洞口昇】米ニューヨークの国連本部で開催中の核兵器禁止条約第3回締約国会議（3～7日）に参加する日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の濱住治郎事務局長代行、原水爆禁止日本協議会（日本原水協）の代表団、日本共産党の吉良よし子参院議員、笠井亮前衆院議員、ついで涼介参院長崎選挙区候補は5日、核兵

界のためのマンハッタン・プロジェクト」など複数の米国やニューヨーク市の反核・平和団体が共催。米国内外の市民が「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウオー、ノーモア・ヒバクシャ」と唱和しました。

胎内被爆者の濱住氏はマイクを持ち、「戦争があつたから原爆が使われた。戦争は絶対にしてはいけない。戦争も核兵器もない世界に向かって行進しましょう」と呼びかけました。

父が被ばく船員の下本節子さん（高知のビキニ被ばく船員訴訟原告団長）は、「日本政府に補償を求めて2016年から裁判を闘っている」と説明。日本の反核運動も紹介しました。

南アフリカの難民支援団体代表のアイザヤ・モンピロさんも、多くの人の命を奪い地域を壊滅させる危険のある核兵器を断固拒否するため、「米国や日本人たちのさらなるつながりが必要だ」と強調しました。韓国の被爆2世や、長崎の高校生平和大使もマイクを握り、核兵器廃絶を目指す思いを語りました。

参加者はプラカードや横断幕を掲げて米政府の国連



パネリストの（左から）シルク、下本、マディソン、ハン、シム、濱住、ティトの各氏＝5日、ニューヨーク（柴田菜央撮影）

## 核被害者の救済を 平和活動家 支援を訴え

【ニューヨーク＝柴田菜央】核兵器禁止条約第3回締約国会議が開かれている米ニューヨークで5日、核被害の「隠蔽（いんぺい）」をテーマとするサイドイベント

ト「核被害・緊急に被害者救済を」核被害者は訴える」が開かれました。原水爆禁止日本協議会とマーシャル教育イニシアチブが共催し、政府代表を含め各国の平和活動家が参加。核被害の実相普及と支援のために力を尽くそうと訴えました。

パネリストの報告で、高

知のビキニ被ばく船員訴訟原告団長の下本節子さんは、米国が日本政府との間で政治決着をつけ、補償のないまま放置された船員たちは被害を語る事ができなくなつたと強調。日本政府に対し、真相究明と核被害者への補償を改めて要求しました。

韓国原爆被害者協会のシム・ジンテさんは、原爆投下から80年たつたいまも米

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の濱住治郎事務局長代行は、核兵器廃絶と原爆被害者への国の償いを求めて国内外で訴えてきたと紹介。「被爆者にとつて、核兵器や核の傘」はきのご雲以外何もない」と訴えました。

は「核兵器の犠牲者の言葉...」

制移住などあらゆる不正義がある」と指摘。「私たちの声ほど力強いものはない」として、それを力に核廃絶を実現させようと訴えました。